



第3号 2021年6月18日 塩崎 房美

Good Fathers Day で作っていただいた1階テラスの素敵なウッドデッキに、子どもたちは大喜びです。桧の木のとても良い香りに、優しい木の肌触り、座ったり寝転んだり、おやつを食べたり、絵本を読んだり、嬉しくて思わず走ってしまったり(本当は危険なのですが・・・)。私たち教職員も、部屋との段差がなくなり、安心も増えました。お父様方、本当にありがとうございました。完成が楽しみですね。



☆今できなくても大丈夫だよ。

給食の時間が始まりました。子どもたちは手を洗いに、手洗い場へ向かいます。石鹸をたくさん泡立ててとても念入りに洗う子、さっと洗ってそそくさと部屋へ戻る子と様々です。その中で、なかなか蛇口を回せず水を出せないAさんがいました。保育者が回しに行こうとしたら、お隣で手を洗っていたBさんが何も言わず、そっと蛇口を回して水を出してくれました。実はAさんは左利きです。園の蛇口はすべて右側に付いていて、左利きの子どもたちには使いづらいのです。Aさんは手の握力もまだ弱いようです。そしてきっとその日は、Aさんの前に洗った子が蛇口をしっかり締めたため、固かったのでしょう。その後、手をきれいに洗うことができたAさんとBさんは、ペーパータオルで手を拭いて二人笑顔で部屋へ入りました。

おやつの時間には、個別に袋に入ったお菓子もよく出ます。お祈りの後、自分でパツと開けて食べ始める子が多いのですが、なかなか開けることが難しい子もいます。そんな時、近くに座っている子が様子に気づき、「開けてあげようか？」と自分がお菓子を食べることを止めて開けてくれていました。みんなで楽しく、嬉しいおやつの時間でした。

☆いい言葉、プラスの言葉、喜びを感じる言葉を、たくさんかけていきましょう。

幼児期は「こころ育て」も大事にしたい時期ですね。子どものこころを育てるとは、ひと言で言うならば、「自己肯定感」をしっかりと育むということです。自己肯定感とは、自分を肯定する気持ち、自分を大切にする気持ちです。自己肯定感が低いと、生き抜く力が育たず、「人のためになることをしたい」という気持ちも育ちにくいそうです。脳の働きは、こころの状態と関係しています。「自分はダメだ」「自分にはできない」と思うと、脳も働かなくなり、能力を発揮できなくなるそうです。

「自分はこんな人間だ」という自己イメージは、80%が幼児期に形成されます。そのほとんどが大人たちからの影響によってかたちづけられるそうです。だからこそ、大事になってくるのが、大人からの言葉がけです。「あなたは〇〇だ」という言葉によって、子どもは自分の潜在意識の中に「そうなのか、自分って〇〇なんだ」と自己イメージをつくっていくからです。

ですから子どもには、よい自己イメージが育つように、否定的な言葉や表現ではなく、肯定的な言葉や表現を使うようにしましょう。子どもの小さな成長に気づき、ほめることも大切です。

